

## ハタ類の養殖試験Ⅱ

新里勝也

### 1. 課題名 ハタ類の養殖試験Ⅱ

### 2. 協力者

羽地漁協大宜味魚介類養殖生産組合、石原養殖、大宜味村、県水産試験場

### 3. 概要

マダイの単一養殖から複数魚種養殖への転換を図るための新魚種導入試験として、ヤイトハタを選定し養殖試験を行った。

今回は稚魚期の歩留まり、成長の向上を狙い陸上池で養成を行った。結果、種苗を入れたのが水温下降期に差し掛かる10月と遅かったため、成績は良くなかった。12月には水質悪化によるものと思われる魚病が発生し、約3分の2がへい死した。

### 4. 目的

近年の多様な消費者ニーズに応えるため、マダイの単一養殖から複数魚種の養殖形態へ移行することにより、経営安定を図ることを目的とし、昨年に引き続きヤイトハタを選定し、実施した。

### 5. 到着目標

ヤイトハタの飼育方法、成長（飼料効率）、歩留まり等の知見を得る。

### 6. 材料と方法

#### (1) 種苗

県内で隔離飼育されたフィリピン産のヤイトハタ稚魚1,050尾（全長5cm）を魚病検査し、選別した後、10月16日輸送、池入れし、供使魚とした。

実際にはチャイロマルハタがほぼ半々で混ざっていることがH5種苗で明らかになったが、稚

魚期の判別が困難なこと及び成長も大差ないことにより総称してヤイトハタとした。

#### (2) 施設及び養成方法

陸上ヒラメ用簡易式円形水槽（半径5m、高さ1m、屋根付き）に水深30cmに海水をポンプアップ方式で供給し、15回転/日で養成。

#### (3) 餌

クルマエビ用配合飼料を裏ごししたもの及び生餌ミンチを使用。

### 7. 結果

#### (1) 飼育方法、成長等

魚はシェルターの中及び下に集まり、シェルター設置の有効性は陸上池においても確認できた。餌食い等、魚の状態は容易に確認でき、陸上池での稚魚期の養成は有意義と判断された。

しかし、冬期は海上生簀に比べ水温は低く（15℃を切った）、餌食いも良くなかった（目視観察）。

#### (2) 水質環境の把握及び魚病対策

水温は午前中に測定し日誌に記録した。

12月に発生した魚病により約3分の2がへい死した。水産試験場の検査の結果、寄生虫（鰓虫）及びビブリオ系統の細菌性疾病と確認された。これらは薬浴、抗生剤経口投与により約1週間で終息した。

#### (3) 試験出荷

平成6年12月に実施した香港の活魚市況調査については、主な取り引きサイズ600～1200gで約3000円/kgとのことであった。また香港において単価の良いとされる1～3月の出荷を検討し、県内業者へ試験出荷した結果、歯ごたえ、日持ち等については申し分ないとの評価を得た。しかし、身の色について慎重に検討すべきとの意見があり香港

への出荷は見送った。

### 8. 問題点及び課題

今年度は種苗の入手に手間取り、水温下降期の池入れとなってしまった。水温が20℃を割ると餌食いが落ちてしまう。よって成長等も良くない。

### 9. 次年度の展開

#### (1) 種苗導入

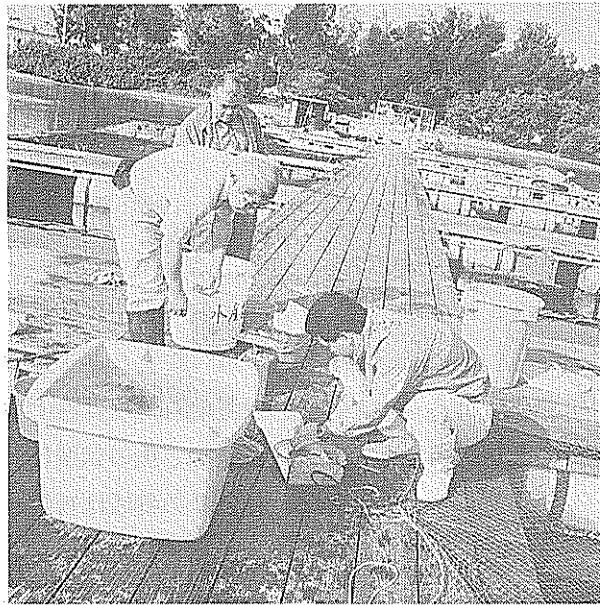
種苗は4～6月の水温上昇期に入れ、15cm程度

まで陸上池で養成し、海上生簀へ展開する方法が良いと思われる。

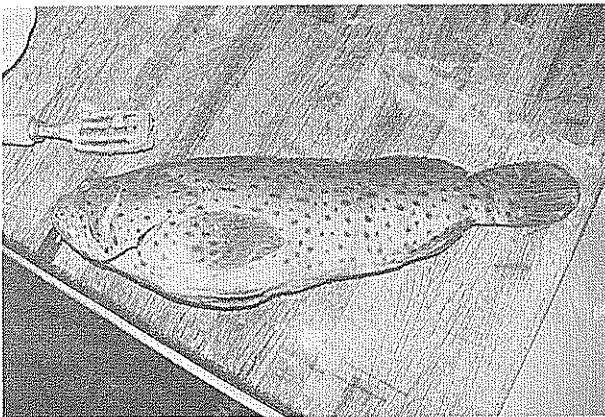
#### (2) 養成及び出荷

身の色について、黒っぽいとの評価があったので、配合飼料だけでなく、生餌等の使用も検討する必要がある。

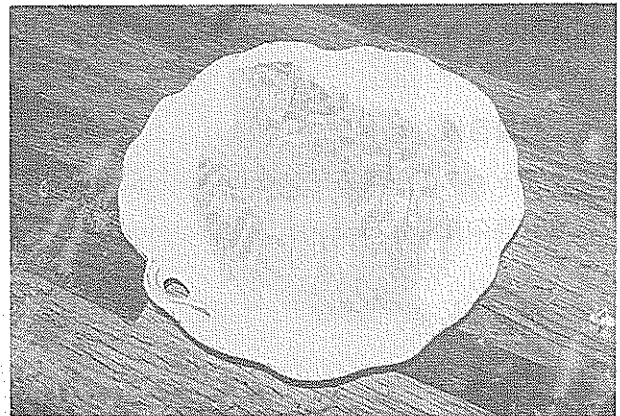
香港の市場は、最初でいい物を供給すれば十分定着できるものと思われるので、身質をチェックしながら取り組む必要がある。



測定状況



調理前のチャイロマルハタ



切身にした状態